

望ましい習慣の形成

— 社会の形成者としての基盤づくり —



- ◆ 子供たちに、自立した社会の形成者としての資質を養うことは、教育の大きな使命です。
- ◆ 習慣は、思考と行動の繰り返しの結果として、私たちに資質を培います。ここでいう資質とは、能力や態度、性質などを総称したものです。
- ◆ 子供は一人一人異なる資質をもち、その成長には個人差があります。しかし、子供の発達に共通にみられる特徴があるのも、また事実です。
- ◆ そうした特徴を踏まえ、各家庭や小学校等と連携しながら、子供の望ましい習慣の確立を支援することは、社会の形成者としての基盤づくりにつながります。
- ◆ 本資料は、第一小学校および第四小学校の協力を得て、望ましい習慣とその形成を支える学校・家庭の役割例をまとめたものです。



習 慣		幼稚園（保育所）	小 学 校		中 学 校
			第 1 学年～第 3 学年	第 4 学年～第 6 学年	
規律ある生活を送る		◆ 笑顔で挨拶、元気に返事、きれいに後片付けを行う。 ◆ 共同のものを大切にし、みんなで使う。 ◆ 自分たちで遊び方やきまりをつくり、守って遊ぶ。	◆ 笑顔で挨拶、元気に返事、身の回りを整える。 ◆ 自分でできることはやり、よく考えて行動する。 ◆ 約束やきまりを守り、みんなで使う物を大切に使う。	◆ 自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。 ◆ より高い目標を立て、くじけないで努力する。 ◆ 法やきまりを守り、自他の権利を大切にし義務を果たす。	◆ 時と場に応じた適切な言動をとる。 ◆ より高い目標を目指し、希望と勇気をもってやり抜く。 ◆ 自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。
	学校では	○ 教師が率先して挨拶、返事、後片付けを行う。 ○ 物を大切にし、譲り合って使うよう、声を掛ける。 ○ 遊び方やきまりをつくらせる。	○ 自分の持ち物の管理及び整理整頓をさせる。 ○ 自分で考え行動できたときに認め、褒め、励ます。 ○ 学校の約束やきまりについて指導を徹底する。	○ 自分で計画を立て、行動を振り返る機会を設ける。 ○ 自分の立てた目標を定期的に見直させる。 ○ 法やきまりの意義について指導する。	○ 時と場に応じた言葉遣いや行動について指導する。 ○ 自分の立てた目標の達成度を定期的を確認させる。 ○ 自分の言動について振り返る機会を設ける。
	家庭では	○ 親が率先して挨拶、返事、後片付けを行う。 ○ 物を最後まで使い切るよう声を掛ける。 ○ 家での約束を明確にし、約束を守る大切さを伝える。	○ 親が率先して身の回りの整理整頓を行う。 ○ 自分で考え行動できたときに認め、褒め、励ます。 ○ 約束を守ったときに認め、褒め、励ます。	○ 家庭での過ごし方を振り返る機会を設ける。 ○ 自分で目標と達成に向けた計画を立てさせ、実行させる。 ○ きまりを守り、義務を果たしたときに認め、褒め、励ます。	○ 礼儀やマナーについて一緒に考え、実行する。 ○ 親子で生き方について話し合う機会を設ける。 ○ 自分で考え行動し、責任を果たしたときに認め、褒め、励ます。
健康な心と体をつくる		◆ 早寝・早起き・朝ごはんを実行する。 ◆ 戸外で、友達と一緒に様々な運動・遊びをする。 ◆ 楽しい雰囲気の中で、食べ物を進んで食べる。	◆ うがいや手洗い、歯磨きなど病気を予防する活動を進んで行う。 ◆ 誰とでも仲良く、健康・安全に留意して意欲的に運動する。 ◆ 何でも残さず、食べる。	◆ 不安や悩みに対処するため、相談したり、運動したりする。 ◆ 活動を工夫して各種の運動の楽しさや喜びを味わう。 ◆ 栄養の偏りのない食事を心掛ける。	◆ 自分なりのストレスの対処法をもち、実践する。 ◆ 目的に適した運動の計画を立て取り組む。 ◆ 食事、運動、休養および睡眠の調和のとれた生活を心掛ける。
	学校では	○ 朝の会で、起床から登園までの生活を振り返る機会を設ける。 ○ 戸外で遊ぶよう声を掛け、一緒に遊ぶ。 ○ みんなで一緒に食事をすることの楽しさを味わわせる。	○ 「一校一取組」、「一学級一実践」を充実させる。 ○ うがいや手洗い、歯磨きの仕方について繰り返し指導する。 ○ 休み時間に外遊びをするよう声を掛けるとともに、みんなで一緒に遊ぶ工夫をさせる。 ○ 健康により食事の採り方を考えながら食べるよう指導する。	○ 自分で工夫して遊んだり運動したりする機会を設ける。 ○ 体に必要な栄養のバランスを考えさせる。 ○ 自分の生活を振り返る機会を設ける。	○ 「挨拶プラス一言運動」【※1】、「いつでも誰にでも相談週間」【※2】を実施する。 ○ ストレスの対処法について指導する。 ○ 自分で続けられる運動を考えさせ、実行させる。
	家庭では	○ 早寝・早起き・朝ごはん、うがい、手洗い及び歯磨きなどを自ら行わせる。 ○ 家族で運動する機会を設ける。 ○ 家族で食卓を囲み、会話をする。	○ 家族で運動する機会を設ける。 ○ 好き嫌いをせず、食べさせる。	○ 子供の小さな変化も見逃さないよう見守る。 ○ 食事の際、栄養のバランスを話題とする。	○ 親子でストレスに対処する方法を考え、実行する。 ○ 栄養のバランスを考えた食事を自分で作る機会を設ける。
人と進んで関わる		◆ 身近な様々な人々と喜んで触れ合う。 ◆ 自ら挨拶を交わし、お礼の気持ちを述べる。 ◆ 思ったことなどを自分なりに表現する。	◆ 自ら挨拶を交わし、友達と仲良くし、助け合う。 ◆ 日頃、世話になっている人々に感謝する。 ◆ 相手のことを思いやり、親切にする。	◆ 自ら挨拶を交わし、男女仲良く協力し、助け合う。 ◆ 自分と異なる意見や立場を大切にする。 ◆ 相手の立場に立って、親切にする。	◆ 友達と互いに励まし合い、高め合う。 ◆ 人々の支えにより自分があることに感謝し、応える。 ◆ それぞれの個性や立場を尊重し、謙虚に他に学ぶ。
	学校では	○ 高齢者をはじめ地域の人々と触れ合う活動を工夫する。 ○ 教師が率先して挨拶を交わし、お礼の言葉を述べる。 ○ 自分の気持ちを言葉で表現させる。	○ 学級全員で活動する機会を多く設ける。 ○ 職員や保護者等に感謝の気持ちを伝える機会を設ける。 ○ 帰りの会などで、友達のよさを伝え合う。	○ 男女が協力して活動する機会を設ける。 ○ 対話や討論など、様々な話し合い活動を設ける。 ○ 多様な他者と触れ合い、助け合う活動を工夫する。	○ 互いに励まし合い、認め合っている姿を認め、褒め、励ます。 ○ 各行事について友達の頑張りを伝え合う機会を設ける。 ○ 多様な個性を認め、互いに学び合う機会を設ける。
	家庭では	○ 親戚等と会う機会を増やす。 ○ 親が率先して挨拶を交わし、お礼の言葉を述べる。 ○ 子供の話を受け止め、最後まで聞く。	○ 友達と仲良く、助け合うことの大切さを伝える。 ○ 親が率先して相手の立場を考え、行動する。		
主体的に学ぶ		◆ 身の回りの事象に関心をもち、疑問を抱いて質問する。 ◆ 自分の考えを互いに言ったり、聞いたりする。 ◆ 絵本や物語に親しみ、自ら本に触れる。	◆ 関心のあること等から課題を決め、必要な事柄を調べる。 ◆ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合う。 ◆ 楽しんだり知識を得たりするため、本や文章を選んで読む。	◆ 考えたこと等から課題を決め、収集した知識や情報を関連付け整理する。 ◆ 互いの立場や意図をはっきりさせながら話し合う。 ◆ 複数の本や文章などを選んで比べて読む。	◆ 課題の解決に向け、多様な方法で情報を集め活用しながら自分の考えを深める。 ◆ 課題の解決に向け、互いの考えを生かして話し合う。 ◆ 目的に応じて本や文章を読み、自分の考えを深める。
	学校では	○ 「ほかに考え方はないか。（多面的・多角的な視点）」、「筋が通って、分かりやすいか。（論理的思考）」、「本当にこれでよいか。（メタ認知）」という問いを子供が自ら発し、クリティカル・シンキングを促進させるよう指導する。	○ 日頃から疑問点等を書き留めておくよう指導する。 ○ 事柄の順序に気を付け、話に反応しながら聞くよう指導する。 ○ 読み聞かせを行うとともに、本の紹介する活動を設ける。	○ 収集した知識や情報を文章の構成や記述に役立つよう整理させる。 ○ 自分の考えと比べ、共通点と相違点を考えて聞くよう指導する。 ○ 各教科等で複数の文章を比べて読ませる。	○ 情報の収集・活用を繰り返しながら、自らの考えを再構築するよう指導する。 ○ 自分の考えや立場との違いを聞き分け、自らの考えの深化に生かすよう指導する。 ○ 読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考える機会を設ける。
	家庭では	○ 疑問や気付きを必ず受け止め、丁寧に答える。 ○ 読み聞かせを行うとともに、親が読書を楽しむ姿を見せる。	○ 学校での出来事を話題とし、毎日会話する。 ○ 親子で図書館に行く。	○ 身近な事柄を話題とし、互いの考えを伝え合う。 ○ 親子で読んだ本の感想を伝え合う。	○ 親子で社会の出来事について話し合う。 ○ 親子で読んだ本を紹介し合う。
喜びをもって働く		◆ 家の手伝いをする。 ◆ 後片付けや当番活動を行う。	◆ 家の手伝いなどを進んで行い、役に立つ喜びを知る。 ◆ 働くことのよさを感じて、みんなのために働く。	◆ 働くことの大切さと楽しさを知り、進んで働く。 ◆ 自分の役割を自覚し、協力して主体的に働く。 ◆ 社会に奉仕する喜びを知って公共のために働く。	◆ 働くことの意義を理解し、公共のために役立つことを行う。 ◆ 自分の役割と責任を自覚し、集団生活の向上のために働く。 ◆ 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって働く。
	学校では	○ 手伝いをするとう助かることを伝える。 ○ 自分から進んで取り組んだときに認め、褒め、励ます。	○ 学級において子供一人一人に役割をもたせる。 ○ 「あなたがいて助かる」など、認め、励ます言葉掛けを行う。	○ 児童会活動等を通して、人の役に立つことを実感させる。 ○ 学級や学校に貢献していることを実感できるよう、声を掛ける。 ○ 地域の清掃活動などの機会を設定する。	○ 生徒会活動や地域と連携した活動の機会等を通して、人の役に立つことを実感させる。 ○ 学校や地域に貢献していることを実感できるよう、声を掛ける。 ○ 職場体験等を通して、勤労の尊さや意義を理解させる。
	家庭では	○ 自分でできる手伝いを決め、取り組ませる。 ○ 片付け方を教え、教えたおりにできたときに認め、褒め、励ます。	○ 自分で決めた手伝いを続けさせる。 ○ 子供が「役に立っている」と実感できる声を掛ける。	○ 自分でできる家事を決め、取り組ませる。 ○ 親子で地域のボランティア活動に参加する。	○ 自分でできる家事を増やす。 ○ 地域のボランティア活動等に参加させ、社会奉仕の精神を養う体験を増やす。

【※１】 挨拶プラス一言運動……教師が生徒と挨拶を交わす際、その生徒が喜び、元気付けられるような言葉を添える取組のこと。そのため教師は、全校生徒の関心事や良い点、頑張っていることなど、プラス面の情報交換を継続して行っている。

【※２】 いつでも誰にでも相談週間……生徒対象の相談活動を学級担任によらず、時間帯を限定せずに実施する取組のこと。学校全体で生徒の悩みや相談を受け止め、問題の早期発見・解決につなげることをねらいとして行っている。